

埋蔵文化財調査センター  
ニュースレター

## 特集 曲物

曲物とは、スギ・ヒノキの薄板を筒状に曲げて製作した道具です。筒状にした一枚板の両端を上下に重ね、ヒゴ状の樹皮で綴じ合わせ、固定し、側板とします（下記イラスト参照）。側板に底板が取り付けられた曲物としてお櫃、盆、桶があり、底板に湯気を通す孔が穿たれた曲物として蒸籠（セイロ）があります。縄文文化における曲物の有無には諸説ある一方、一般的に本州では1世紀（弥生文化）～6世紀（古墳文化）の遺跡で曲物が発見され始め、8世紀以降に曲物の発見される遺跡が増加します。

北海道の遺跡における曲物の利用は、8世紀（擦文期）以降に始まります。北海道の遺跡で発見された曲物のほとんどは、北海道に自生しないスギ、ヒノキを素材として製作されていることから、本州から製品として持ち込まれた搬入品と考えられています。

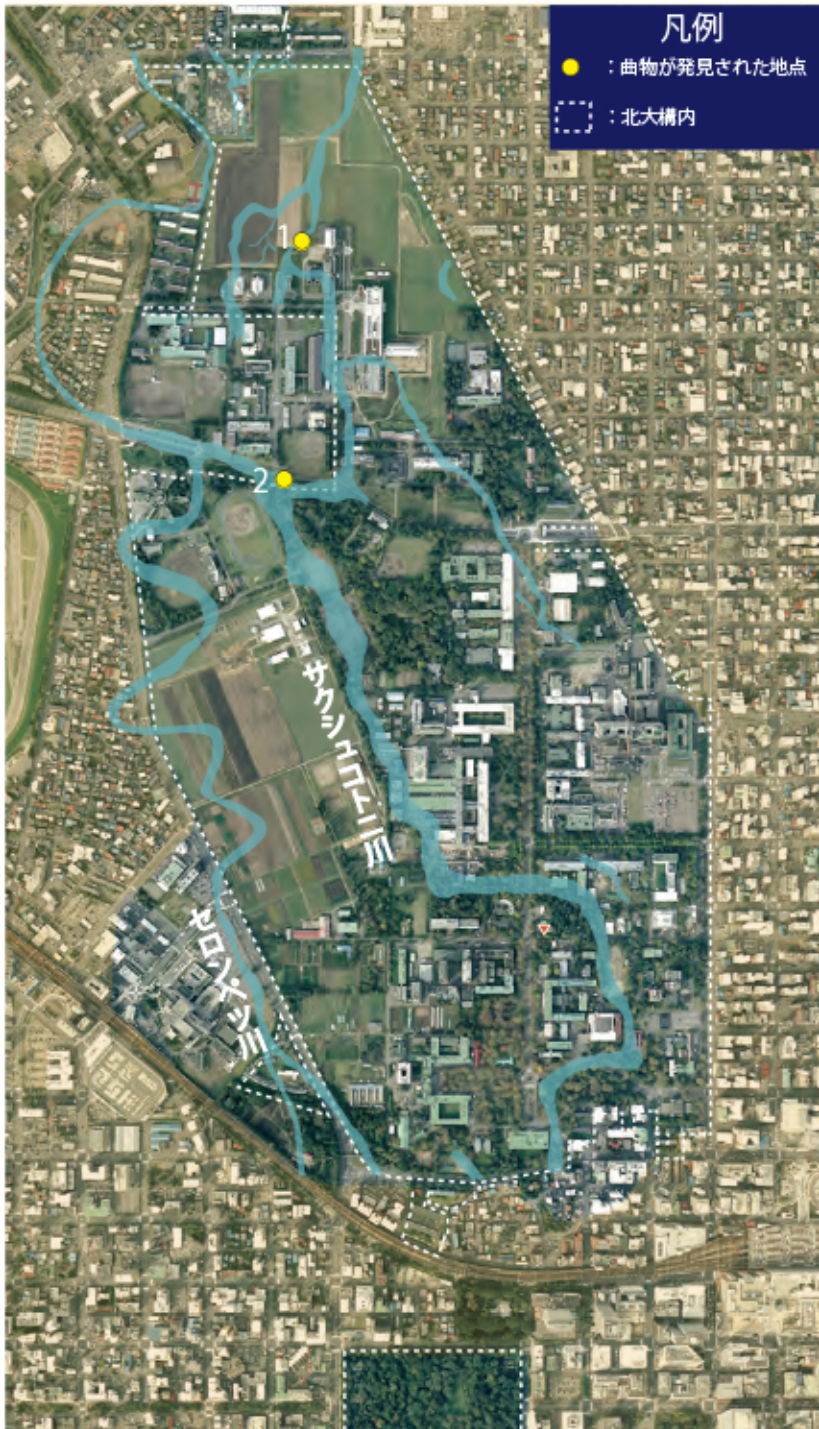
本特集では、北大構内で発見された曲物を紹介します。



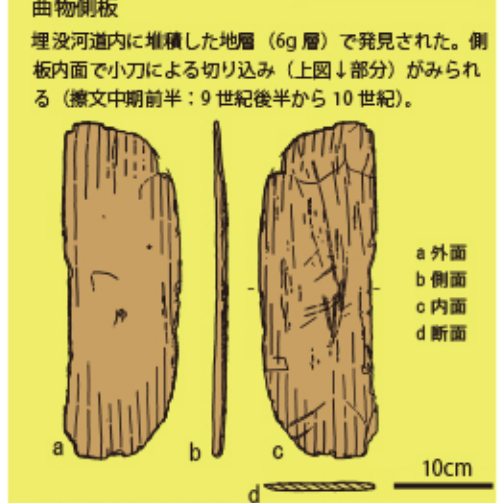
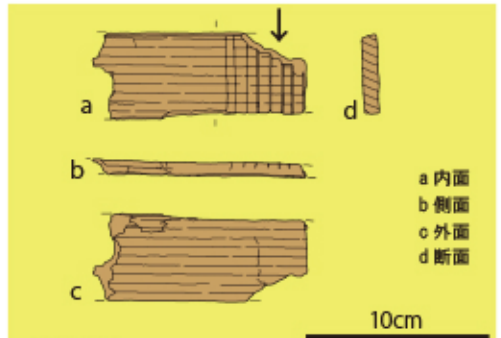
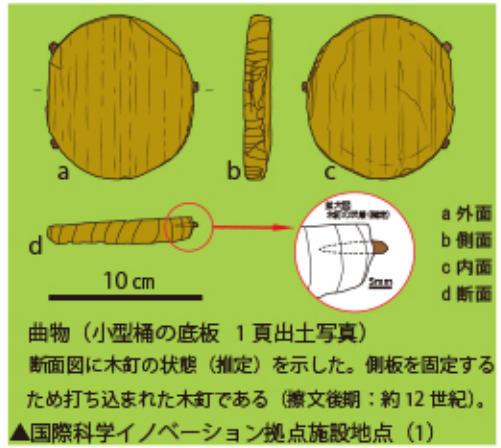
## ▲ 曲物容器の底板の発見状態

K39遺跡国際科学イノベーション拠点施設地点では、埋没河道に堆積した粗砂層中に、容器の底板1点（直径約11cm）が発見された。小型の曲物桶の底板と考えられる。その曲物の時期は、同一地層で確認された土器の特徴から、擦文後期（約12世紀）と推定する。

# 曲物が出土した地点



**凡例**  
 ● : 曲物が発見された地点  
 □ : 北大構内



番号	地点名	部位	時期	出土位置	素材樹種	報告書名	備考	
1	国際科学イノベーション拠点施設地点	底板	擦文後期（12世紀）	埋没河道：5A-3a層	スギ	北大構内の遺跡22	2016 北海道大学埋蔵文化財調査センター	
		側板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	ヒノキ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	再加工され転用
		側板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	ヒノキ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	再加工され転用
		側板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	ヒノキ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	再加工され転用
		側板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	ヒノキ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	再加工され転用
		側板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	スギ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	再加工され転用
		側板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	スギ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	再加工され転用
		側板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	ヒノキ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	再加工され転用
		側板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	モミ属	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	再加工され転用
		側板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	ヒノキ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	再加工され転用
2	エルムトンネル地点	側板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	モミ属	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	再加工され転用
		底板もしくは蓋板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	ヒノキ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	
		底板もしくは蓋板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	モミ属	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	
		側板（破片）	擦文中期前半（9世紀後半～10世紀）	埋没河道：6g層	アスナロ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	縦方向の年輪8列が内面にみられる
		側板（破片）	擦文中期前半（9世紀後半～10世紀）	埋没河道：6g層	スギ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	縦方向の年輪11列が内面にみられる
		底板もしくは蓋板（破片）	擦文中期前半（9世紀後半～10世紀）	埋没河道：6g層	アスナロ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	
		側板（破片）	擦文前期（8世紀後半～9世紀前半）	埋没河道：7a層	ヒノキ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	縦方向の年輪25列が内面にみられる
		側板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	ヒノキ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	
		側板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	ヒノキ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	
		側板（破片）	擦文後期（約12世紀）	埋没河道：5a層	ヒノキ	K39遺跡第6次調査	2001 札幌市教育委員会	



## ■ セロンペツ川の名前の由来

北大構内を流れていた河川の一つに、「セロンペツ川」があります。知事公館、植物園の湧水を源として、北大第一農場から恵迪寮に向かって蛇行していた河川です。

山田秀三氏は「松前氏の時、番人等鮭を「せいろう」に入れて塩鮭を製したる処なれば、斯く名と云う（永田方正 北海道蝦夷語地名解 明治24年刊行）」を引用し、セロンは蒸籠（セイロウ）が訛って発音され、その下に川を意味するペツが付けられたと「セロンペツ川」の由来を解釈しました。当時、蒸籠を使った様子がしばしば川辺で見られたのでしょうか。

河川の名前が定着した頃の蒸籠は、塩鮭作りのどの工程で使用されたかは不明ですが、曲物の形態であったと考えられます。



▲山田秀三氏の著書写真  
山田秀三「札幌のアイヌ地名を尋ねて」 楡書房  
1965年刊行

## ■ 2020年度北方生物圏フィールド科学センター実験実習棟地点の本発掘調査【速報】

2020年9月から11月までの期間、北方生物圏フィールド科学センター実験実習棟地点の本発掘調査を実施しました。調査では、屋外炉址、焼土粒子集中箇所などの遺構が確認されるとともに、土器片、石器、礫など約1000点の遺物が発見できました。

関係機関の協力によって行うことができた調査は、来年度継続して実施する予定です。



▲黒曜石製石器の出土状況



▲調査風景



▲屋外炉址の確認状況

## 編集後記

北海道の遺跡で発見された曲物を集成すると、北大構内の遺跡が本州との交流の重要拠点であったと分かります。

本号をまとめるにあたり、北海道埋蔵文化財センターの田口尚氏に、多くのご教示をいただきました。記して感謝申し上げます。（守屋）

北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター第37号

発行 : 北海道大学埋蔵文化財調査センター  
〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目

電話 : 011-706-2671 FAX : 011-706-2094

e-mail: hokudaimaibun@gmail.com

URL : <http://maibun.facility.hokudai.ac.jp/>